院内感染対策指針

吹田徳洲会病院は「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」として、地域に信頼される病院でありたいと考えています。病院の理念を実現するためにも、院内感染に対する指針を策定し院内感染の防止を命題とし、発生時の対応について全員で取り組みます。安心安全な医療を実現するためには、院内感染対策の推進が不可欠であるとの認識がまず重要です。職員一人ひとりが、患者中心の医療を提供できる環境を整える意識をもち、病院として院内感染対策に取り組みます。

組織的な取り組み

院内に感染対策委員会を設け、専門医師を委員長とし、各部署横断的な構成員で組織します。定例で月1回の委員会を開催し、院内感染対策に関する事項を策定し、指導を行ないます。さらに、感染対策を実施するために「インфекションコントロールチーム」を設けています。

組織体系は下記とします。

病院幹部会議 → 院内感染対策委員会 → インフェクションコントロールチーム

感染対策のための職員研修

院内感染対策委員会の主催する研修会を、全職員対象で年2回定例開催します。職員の入職時の研修に感染対策を組み入れます。また部署ごとの感染対策に関する学習会を指導・支援していきます。手指衛生啓蒙の表示を行い、研修の実施内容について記録していきます。

感染症発生状況の把握・報告

院内感染の予防と早期発見に努め、感染防止対策の改善を図り、サーベイランスを行ないます。

耐性菌のサーベイランス

週報の発行で職員への周知に努めるとともに、月報として感染対策委員会で報告します

カテーテル感染サーベイランス

感染リスクの高い、中心静脈カテーテル・尿路関連感染の実態を調査し、留置の必要性を協議することもあわせて、防止技術の向上に努めます

■ 院内感染発生時の対応に関する基本方針

感染症が発生した場合、その感染源の特定に努め、院内感染の疑いがある場合は感染対策委員会に報告します。対応方針を決定し、早期収束に努めます。原因究明から再発防止の対策を協議します。

結核の発生があった場合、患者の隔離などについて速やかに対応し、保健所と連携して接触者検診の実施など二次発生の早期発見と予防に努めます。

■ 患者等に対する指針等の閲覧に関する基本方針

感染対策への協力と理解を得るために、手洗いやマスク使用などの啓発ポスターを設置します。この指針は院内に掲示し周知を図ります。

■ 感染対策マニュアルの作成と更新

医療活動を感染対策の視点から潤滑に行うためのマニュアルを整備します。感染対策委員会は厚生労働省の指導や他の情報収集に努め、本院の現状に即してマニュアルの見直しを行ないます。

■ 職業感染対策に関する基本方針

職員が感染源とならないように、また安全な医療環境を整えるために、定期的な健康診断を実施しています。また医療従事者の抗体検査とワクチン接種の徹底をはかります。針刺し・切創事故防止のための情報収集・器材導入をおこないます。万一罹患した場合、職員の休務などの措置を取ります。

平成26年7月1日

吹田徳洲会病院
病院長 高橋 俊樹